

第51回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会開催ご案内

総会開催にあたって

会長 芦田 隆司
(近畿大学医学部血液・膠原病内科)

会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、2018年（平成30年）1月26日（金）、27日（土）の両日、大阪におきまして、第51回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。

日本無菌生物ノートバイオロジー学会（Japanese Association of Germfree Life and Gnotobiology : JAGG）は1968年に設立され、以来半世紀にわたって無菌生物学・ノートバイオロジー（Gnotobiology）という視点で、医学、理学、農学、薬学、歯学、栄養学、獣医学、繊維学など多彩な領域の報告が積み重ねられてきました。本学会の特徴は、基礎と臨床の研究者が一堂に会して、自由なディスカッションを行うことであり、次の半世紀に向かって新たな発展を期待したいと考えています。

今回の総会では、過去と現在・未来を総括する意味で、神谷茂理事長に「無菌マウスを用いた基礎医学研究」と題する理事長講演をお願いするとともに、特別講演2題、シンポジウム1題、一般演題から構成いたしました。会員の皆様には奮ってご参加いただき、多くのご発表とご議論をいただけますようお願い申し上げます。

会 期 2018年（平成30年）1月26日（金）・1月27日（土）
会 場 大阪ガーデンパレス
〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-3-35
TEL 06-6396-6211（代） FAX 06-6396-6220

参 加 費 7,000円 学生会員 1,000円
懇 親 会 費 3,000円

日 程 （一部変更の可能性あります）

会 場	1月26日（金）	1月27日（土）
桜（2F）	13:00- 開会の辞、総会議事 IAG 選挙会 13:30-14:50 一般演題 14:50-15:50 理事長講演 16:00-17:00 特別講演I 17:00-18:00 特別講演II	9:00-10:00 一般演題 10:00-11:30 シンポジウム 11:30-12:00 佐々木正五賞授与 閉会の辞
写真室（3F）	18:00-18:30 記念写真撮影	
カメラヤ（3F）	18:30-20:30 懇親会	

理 事 長 講 演 「無菌マウスを用いた基礎医学研究」 杏林大学 神谷 茂
特 別 講 演 1 「*H. pylori* 関連血液疾患～その理解と治療の進歩」 広島大学 一戸辰夫
特 別 講 演 2 「重症感染症の診断と治療」 京都大学 一山 智
シ ン ポ ジ ュ ム 「消化器疾患とマイクロバイオーム」

一般演題申し込み

- a. 対象 本学会会員
 一般演題の演者と共同発表者は本学会会員であることを要します。未入会の方は日本無菌生物ノートバイオロジー学会事務所へ入会の手続きをしてください。無菌生物学・ノートバイオロジーに関する新しい知見を有する研究で未発表のものに限ります。
- b. 締め切り日 2017年（平成29年）10月31日（火）
- c. 申し込み方法 テキスト形式で申し込み書を作成の上、E-mail に添付して、学会事務所 gnotobiosaki@ks.kyorin-u.ac.jp へお送りください。
- d. 申し込み書 ①演題、②発表者（演者の前に○をつけてください）、③所属、④抄録、⑤英文演題、⑥英文発表者、⑦英文所属、⑧英文抄録、⑨演者 連絡先、氏名、生年月日、⑩ TEL、⑪ FAX、⑫ E-mail を明記してください。
 ①～⑧を「抄録集」B5版見ひらき2頁（和文と英文）に印刷します。
- e. 略語 本学会の会員構成は広範な領域にわたっています。略語（abbreviation）は初出のところに「略さない形」（full term）をお示しください。

例)

第51回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会一般演題申し込み書（2017年10月10日）	
①演題	<i>Helicobacter pylori</i> の自由生活性アメーバ共培養系における生存性の向上
②発表者	○北条 史*, 大崎 敬子**, 米澤 英雄**, 花輪 智子**, 蔵田 訓**, 山口 博之***, 神谷 茂**
③所属	(*杏林大学大学院医学研究科共同研究施設部門実験動物施設部門, **杏林大学医学部感染症学講座, ***北海道大学保健科学研究所病態解析学講座)
④抄録	(1,200字以内) I. 目的（またははじめに、背景等） <i>Helicobacter pylori</i> は胃炎・胃潰瘍・十二指腸潰瘍の起因菌であり…… II. 材料（または対象）と方法 <i>A. castellanii</i> Neff 株は6-well マイクロプレートに…… III. 結果, 考察, 結論 共培養系をインキュベーターに静置して……
⑤英文演題	Survival of <i>Helicobacter pylori</i> in co-culture with <i>Acanthamoeba castellanii</i> and their expressions of bacterial genes
⑥英文発表者	○FUHITO HOJO *, TAKAKO OSAKI **, HIDEO YONEZAWA **, TOMOKO HANAWA **, SATOSHI KURATA **, HIROYUKI YAMAGUCHI *** and SHIGERU KAMIYA *. **
⑦英文所属	* Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University, Mitaka ** Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, Mitaka *** Department of Medical Laboratory Science, Faculty of Health Science, Hokkaido University, Sapporo
⑧英文抄録	(250 words 以内) <i>Helicobacter pylori</i> is a causative agent for gastritis, gastric ulcers, and duodenal ulcers. Almost 50% of the world's population harbor this gram-negative microaerophilic bacteria. . .
⑨演者	連絡先、氏名、生年月日 〒181-8611 東京都三鷹市…… 杏林大学…… 北条 史 (19……年…月…日生)
⑩ TEL	0422-47-…… 内線……
⑪ FAX	0422-44-……
⑫ E-mail	……@ks.kyorin-u.ac.jp

演題の採否はご一任くださいますようお願い申し上げます。演題が採択されましたら、機関誌「無菌生物」のプロシーディングスとして掲載する原稿をご提出いただきます。詳しくはお申し込み後にご案内いたします。

日本無菌生物ノートバイオロジー学会事務所
 〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2
 杏林大学医学部感染症学講座 大崎敬子
 TEL 0422-47-5511 内線3464 FAX 0422-44-7325
 E-mail gnotobiosakii@ks.kyorin-u.ac.jp